



お江戸舟遊び瓦版 887号

水彩都市江東 ころろ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり

お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

シヨシヤナ・ズボフ 野中香方子訳 「監視資本主義 人類の未来を賭けた闘い」 東洋経済新報社 21.7.8 (1)

序論 最初の地図

第1章 デジタルの未来におけるホームか追放か

- わたしたちは皆、スマートな機械のために働くようになるのでしょうか。それとも、聡明な人々は皆、スマートな機械の周りに集まるのでしょうか。
- 製紙工場の若い幹部が抱く疑問は、最古の政治的問いに通じるものだ。国に留まる、追放される、王に、家来に、主人に、奴隷になるか。
知識と権威と力を巡る永遠の問いだ。歴史に終わりはない。どの時代にも新たな脅威が出現し、意思の強さと想像力を問われてきた。
- 最古の問いには、あらゆる社会、階層、世代の、数十億の人間が答えなければならない。情報通信技術は電気より広く普及し、70億の世界人口の30億人に到達した。知識と権威と力のもつれから生じるジレンマはもはや、1980年代のように職場に限定されるものではない。今や日常生活の必需品に深く根を張り、ほぼあらゆる形態の社会参加を仲介しているのだ。最古の問いはより広い枠組みに向けられ、文明・情報文明に向けられている。この新興の文明は、私たちがホームと呼べる場所になるのだろうか。
- 2000年にジョージア工科大学のコンピューターグループが、「アウェア・ホーム (Aware Home)」プロジェクトを始めた。目標は「ユビキタス・コンピューティング」研究の「生きた研究室」を創ることだ。具体的には、家中に埋め込まれた情報認識センサーの精緻なネットワークと、居住者が着用するウェアラブル・コンピューターによって人と家との共存を図ることだ。
- この実験には、①全く新しい知識の領域を生む、②生活を向上させる権利は居住者にある、③アウェア・ホームは古くからの慣例に従って、家を壁に囲まれた私的な聖域とみなす。
それから18年経た2018年、世界のスマートホーム市場の価値は、360億ドルと評価され、2023年までに1510億ドルに達すると予想されている。
- デバイスの一つ、ネストのサーモスタットは、使用状況と環境についてデータを収集し、居住者の行動を学習する。そのアプリケーションは、自動車、オープン、ランニングマシン、ベッドといった「つながった」製品からもデータを集める。さらに異常を感知すると、ビデオ撮影や録音を開始し、居住者か他の人に異常を通知する。さらにネストはグーグルに合併され、グーグルのAI能力を利用できるようになった。
- Wi-Fi対応でネットワーク化されたサーモスタットが続々と生み出す、複雑でパーソライズされたデータは、グーグルのサーバーにアップロードされる。それぞれのサーモスタットには「プライバシーポリシー」と「サービス利用規約」と「エンドユーザー・ライセンス契約」が付属する。機密情報を含む家庭や個人の情報は、他のサードパーティへの販売を目的として、他のスマートデバイス等と共有される。しかしネストは収集した情報のセキュリティについて責任を負わない。
- ネストの利用規約によると、ユーザーが同意を拒んだ場合、サーモスタットの機能とセキュリティは大幅に損なわれ、アップデートがなされなくなる。2018年までに、アウェア・ホームの作業仮説は風と共に去った。個人情報や知識のアプリケーションに対する権限は、凶々しいマーケットベンチャーに強奪された。それらの企業は、他社の経験と得られた知識に対して一方的な主張を繰り返している。デジタルの夢が暗黒化し、貪欲な商業プロジェクトへと急速に変化しつつある。その貪欲なプロジェクトを私は、監視資本主義と名付けた。



監視資本主義とは何か？

- ・ 監視資本主義は人間の経験を行動データに変換するための無料の原材料として一方的に要求する。これらのデータの一部は、占有的な行動余剰と宣言され、「人工知能」と呼ばれる先進的な製造プロセスに送られ、私たちの行動を予測する予測製品へと加工され新種の行動予測市場で取引される。その市場を行動先物市場と名付けた。監視資本主義はこの取引から莫大な富を得た。
- ・ 監視資本主義は、市場競争に後押しされて、より正確な予測を可能にする行動余剰を捕捉しようとし、声や人格や感情を用いるとともに、説得し、なだめ、調整し、駆り立てることで、より正確な行動データが得られることに気づいた。自動化された機械処理により、行動を知るだけでなく形成するようになった。私たちに関する情報の流れを自動化するだけでなく、私たちが自動化することが目指されるようになった。複雑な「行動修正」が生産の手段になり、新しい種類の力を生み出した。それを私は道具主義と呼ぶ。彼らは、軍備と軍隊ではなく、ネットワーク化された「スマートな」デバイスとモノとスペースからなるユビキタスな計算構造媒体を介して目的を達成する。
- ・ 監視資本主義は、初期のデジタルの夢とは逆の方向に進み、アウェア・ホームを古代の歴史に追いやり、ネットワーク化にはある種の道徳が伴うという幻想さえ打ち砕いた。デジタル接続は、他者の商業目的をかなえる手段化した。その核の監視資本主義は、寄生的で自己主張が強い。「労働を餌食にする吸血鬼」というカール・マルクスが描いた資本主義の古いイメージが想起されるが、この吸血鬼は思いもよらない方向転換を遂げた。貪り食うのは、労働ではなく、人間のあらゆる経験のあらゆる側面なのだ。
- ・ グーグルが監視資本主義を発明し完成させた過程は、1世紀前にゼネラルモーターズが経営資本主義を発明し完成させた過程によく似ている。グーグルは、思想と実践における監視資本主義の開拓者であり、研究開発の資金調達や、実験と実行の先駆者だった。この道をグーグル、フェイスブック、マイクロソフト、アマゾン、アップル等々が競争し、走り続けている。アップルにとっては監視資本主義は、外部の脅威にして、内部の議論と不和の源にもなっている。
- ・ 本書が採用した証拠と推論が示唆するのは、監視資本主義は、新たな経済的要求が推進する不正な力であり、社会規範を無視し、民主主義社会の構築に不可欠な個人の自律性と基本的権利を無効にしようとしている、ということだ。
- ・ 産業文明が自然を犠牲にし、今では地球まで犠牲にし、この監視資本主義と道具主義が形成した情報文明は、人間の本質を犠牲にして繁栄し、いずれは人間性を犠牲にするだろう。

所感：日本経済は衰退感があり、韓国にも一人当たり所得が5年前から少なくなっているとも聞く中、今までの自分の知識では理解できない、世界の大変革を痛感させられる本に出合った。

右図によると米国中国が成長する中で、日本の低成長が対照的だ。世界時価総額ランキングによると平成元年には日本はNTTをトップに50社中32社を占めていたのに対し、平成31年には43社にトヨタ自動車が入っているに過ぎない。トップはアップルで、マイクロソフト、アマゾンが続き、アップルはトヨタの5倍を超える評価額で、その差は拡大し続けている。日本が得意としてきた家電製品や自動車中心の現物商品ではない架空商品へと大規模な変化が起こっているようだ。

その中心が、監視資本主義の中核をなすGAFAと言われる情報産業で、ジャパンアズナンバーワンと傲り高ぶった日本が世界の後進国？になってしまった原因かも知れない。今後の抜本的な国政改革なしには、デンマークを中心とする人権・民主主義の幸福大国北欧には近づけない感がある。

監視資本主義の今後の推移を注目・監視し続けていかなければならないようだ。（文責 中瀬）

